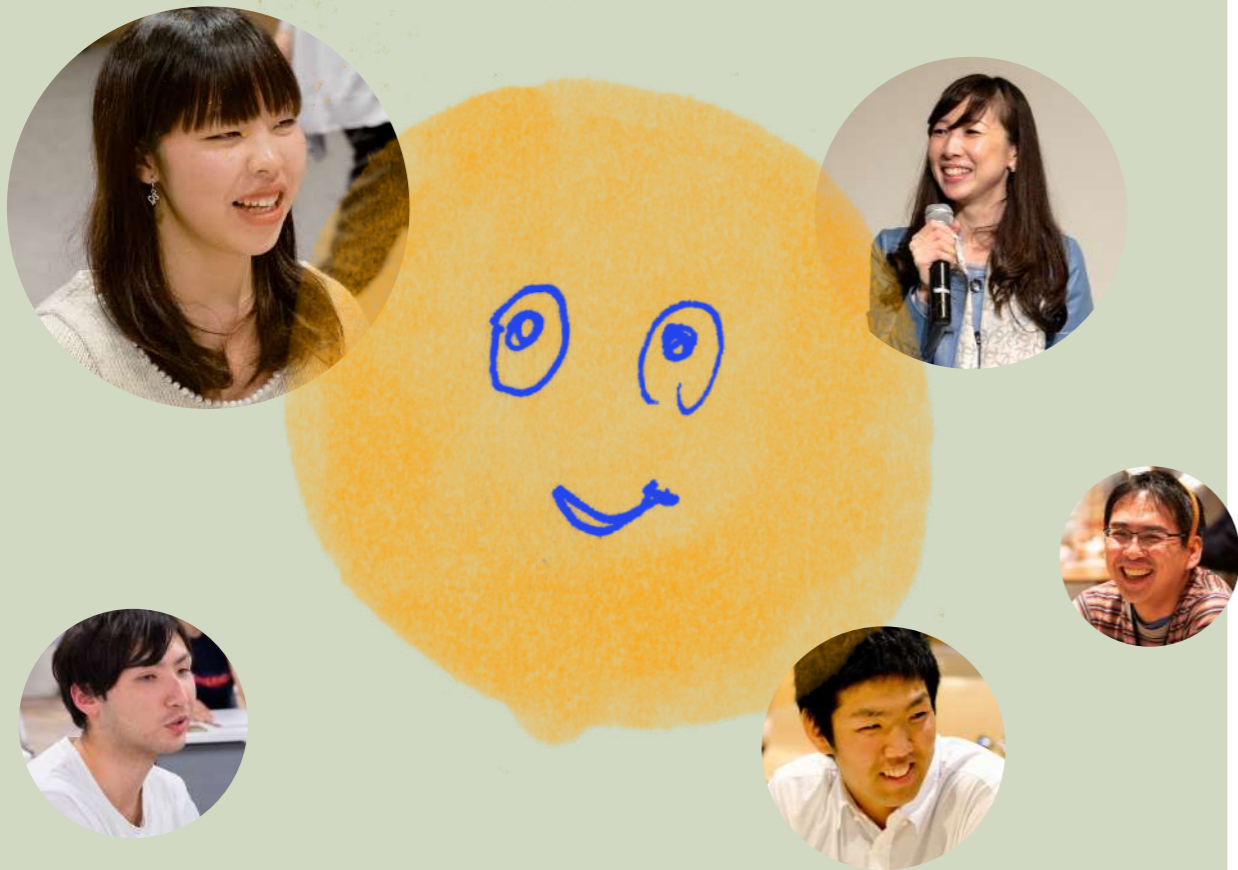




スマイル Smile!

2021



For Bridge Smile

認定NPO法人ブリッジフォースマイル

児童養護施設と社会をつなぐ笑顔の架け橋
 今春、ホームページをリニューアルします！

子育てを、まちでプラスに。 認定NPO法人こまちぷらす



横浜市で「子育てをまちでプラスに」を合言葉に活動している団体です。子育てが「まちの力」で豊かな社会を実現するため、子育てに関わる人を増やし、子育て家庭との対話の場や助け合う機会を提供する事業を展開しています。B4Sには2015年からインターンシップへご協力いただいています。



何かホッとした気分
 のときにはいつでも
 遊びにきてくださいね♪

左から
 守家(もりや)さん/こまちカフェ店長
 北本(きたもと)さん/こまちぷらす副代表
 海野(うみの)さん/こまちカフェキッチンリーダー

子どもたちに、いろんな大人と
 触れ合う機会をつくれたら



B4S担当者の方がこまちぷらす副代表のママ友というご縁を通じて、こちらのサポートのことも知りました。施設や里親さんのもとで育つ子どもたちが18歳で施設から出る必要があること、その前に社会体験ができる機会の必要性を教えてください、子どもたちのために何かできることがあればとインターンシップ受け入れが始まりました。子どもたちにはカフェでの仕事体験だけでなく、弊団体が、なぜ立ち上がったのかということも伝えています。またカフェでの体験では、店舗で働くメンバーをはじめ、多くの大人と話す機会をつくっています。お客さまと触れ合いながら、今



B4S事務局だより

入社して6年目になります。就労体験や奨学金プログラムを企業と考えたり、職業紹介、金銭や物品のファンドレイジングなど、企業に子どもたちのことを伝え、子どもたちを社会へとつなぐ仕事をずっと担ってきました。

「この伝え方で良かったのか」「この紹介先で良かったのか」と、答えは簡単には出ないですが、これまで子どもを支えてきた方の思いと子ども自身の可能性をそがないよう、つなげていければと思っています。



米澤麻理子
 (よねざわ まりこ)



取材・執筆(インタビューコーナー)：神田裕子
 撮影(インタビューコーナー)：山村隆彦
 デザイン：ナミエミツヲ
 制作スタッフ：粕谷知美、渡辺稲子

つながり続ける B4Sの自立支援プログラム

中学生・高校生に向けたプログラム

- 巣立ちプロジェクト 高校3年生のためのひとり暮らし準備セミナー
- ひとり暮らしハンドブック ひとり暮らしに必要な情報が詰まった1冊
- 自立支援セミナー 自立に向けた意識づけを行う体験型セミナー
- ジョブプラクティス 気軽に参加できる1日職業体験
- 就労体験インターンシップ 仕事体験で成長と職業観を育む

退所者に向けたプログラム

- アトモプロジェクト 退所後もつながって孤立を防ぐ
- 自立ナビゲーション 退所後のマンツーマンサポート
- 職業紹介 少し働いてみてから応募を検討する就労支援プログラム
- よこはまPort For 入所中も退所後も、気軽に立ち寄れる居場所
- さが・こんね 佐賀県初の居場所事業
- スマイリングプロジェクト 退所者へ住宅支援

啓発プログラム

- コエール 親を頼れない経験を若者たちが語るスピーチイベント

施設を巣立った 私から



看護師を目指して
勉強中！
夢を叶え、
今度は自分が
人に笑顔を届けたい

本田大治さん（ほんだ だいじ）
2017年児童養護施設退所

看護専門学校で3年生で、現在は病院での実習に加え、看護師国家試験に向けての勉強という、多忙な日々を送っている本田さん。ここまで来るには、さまざまな悩みや試験を乗り越えてきたそう。その中で、ブリッジフォースマイル(B4S)によるサポートも大きかったと言う本田さんへ、お話を聞きました。

担任の先生の勧めで 看護師の道へ

中学、高校時代はサッカー部に所属し、部活動を通してスポーツトレーナーという職業を知りました。高校の進路相談時、担任の先生に「スポーツトレーナーになりた」と伝えたら、将来的に考えると、食べていくのが難しい職業であること、それでもやりたいなら、活躍の機会があるアメリカに行ったほうがよいことなどをアドバイスされました。でも、経済的にも語学的にも無理な話で迷っていたら「看護師はどう？」と勧められたんです。スポーツトレーナーも看護師も人の体に関わるという共通点があったし、何より人のためになる仕事に魅力を感じて、看護師を目指すことにしました。

選択肢は何かありませんが、設備が充実していて、自分が求める学びの環境が整っていた今の学校を選び



職業：学生 / 趣味：寝ること
笑顔のもと：人の笑顔を見ること
最近夢中になっていること：
看護師国家試験に向けて、
カフェで勉強すること

ました。でも先生にも施設の職員さんにも反対された。高校や施設から遠く離れた学校だったし、偏差値も高かった。経済的なことを考えるとバイトをしないと生活できないこともあり、心配だったんだと思います。だけど、「絶対この学校に行く！」という気持ちが強くて、反対を押し切って受験しました。

自分を気にかけてくれる人がいるのは幸せなこと
B4Sと関わるきっかけになったのは、高校3年生のときに奨学金支援プログラムの「カナエール」に参加したこと。今もお世話になっています。最初は「奨学金をもらえるから」くらいの軽い気持ちでしたが、定期的担当のスタッフやボランティアの方と連絡を取り合うことで、さまざまな情報を得られるし、「心配してくれる人がいる」「自分を気にかけてくれる人がいる」と思えるのは、やっぱりうれしいです。

実は僕、留年して2年生を2回やっているんです。無理して入った学校だとわかってはいたけど、実際に授業が始まると、まったく学力が

追いつかなくて。しかも、初めてのひとり暮らし、まわりを知っている人もいない……。学業的な劣等感に加え、心理的、環境的にも苦しくなりました。加えて、2年生のときの実習で担当した患者さんが、急変して亡くなる経験をして、精神的なダメージが強く、一時期はもぬけの殻になってしまいました。そんなときも、B4Sのスタッフに話を聞いてもらうことで救われました。留年時にはB4Sの協賛企業による中退予防のための奨学金を受け取りました。そのおかげで、なんとか無事に学生生活を送れています。反対を押し切って進学した学校で学業不振で留年したのに、施設の園長を始めとした職員さんたちが僕のことを責めずに、「頑張れ」と背中を押して応援してくれたことも大きな力になりました。

ただ、今年は新型コロナウイルスの關係で、働きたくてもバイトができない、オンライン授業のためのパソコン代など、金銭的な問題が続出しました。そこでも、B4Sの「新型コロナウイルス緊急支援」で家賃補助、食料品補助を受けることができ、とても助かっています。

今は実習に加え、就職活動そして国家試験に向けての勉強で毎日睡眠不足ですが、これまで支えてくれたみなさんに合格の報告をできるように、取り組んでいきます。



FROM CHILDREN'S HOME 自立援助ホームの職員から



志村亜希子さん
(しむら あきこ)
職業：自立援助ホーム職員
趣味：釣り、食べ(呑み)歩き、旅行
笑顔のもと：ポジティブ思考を心がける
最近夢中になっていること：
娘と本気の絵画タイム

自立援助ホームは、15歳から20歳までの子どもたちが暮らし施設です。今回、複数のB4Sスタッフから「ぜひ登場して欲しい！」と推薦があった志村さん。志村さんの支援に対する熱い思いが、B4Sスタッフにも伝わっています。

子どもたちに寄り添い 可能性をとことん探る

自立援助ホーム「樹の下ホーム」は2013年に埼玉県志木市に開設しました。10代のころ、恩師が言った「恩は返していくもの」という言葉を胸に、さまざまな形でお世話になった児童福祉の現場で働き11年になります。

「最後の砦」と言われる自立援助ホームには、心身ともに深い傷を負い、一人ひとり深刻な問題を背負った子どもたちが入所します。その苦しさに寄り添い、受けとめ、支援の可能性をとことん探ること、そしてやっと辿りついた

大切な命が目の前にある……その思いが私の原動力です。

B4Sは、ホームの子どもを支援して下さった最初の支援団体です。心強いのは、どのプロジェクトも大人の支えや存在を体感しながら、目標に向かって子どもに伴走して下さるところです。私はそこにとっても感銘を受けました。今では子どもの支援に不可欠な存在です。心より感謝しつつ、今後も社会的養護を必要とする子どもたちのために、連携できたらと思います。

FROM VOLUNTEERS ボランティアメンバーから



元重敦次さん
(もとしげ あつし)
職業：ホテル運営会社の社員
趣味：旅行、鉄道、読書など
笑顔のもと：子どもたちや、ボランティアさんたちとの関わり
最近夢中になっていること：
スノーボードやランニングなどの運動

B4Sには約500人の社会人ボランティアがいます。元重さんは、巣立ちプロジェクトやコエールでみんなを引っばる中心メンバーとして活躍中。ニックネーム「あつん」として慕われ、満面の笑顔がトレードマーク。明るく楽しい雰囲気をつくる立役者です。

個性豊かな子どもたちと 一緒に成長できる

B4Sに参加したきっかけは、会社の同僚に誘われ「カナエール」のスピーチコンテストを観覧したことでした。そこで、進学という目標に向かって高校生と大人が一体となって取り込む姿勢に感銘を受けました。

B4Sの活動では、サポートする側、される側という立場の違いはありますが、私たちサポートする側も一緒に成長できると感じます。また、個性豊かな子どもたちと関わりながら、逆に私の方が元気をもらうことが多く、毎回とても

エネルギーをもらっています。コミュニケーションに関するボランティア研修は本業にも活かせて、とても助かっています。

今後子どもたちとの関わりを続けていきたいですが、子どもを取りまく社会のあり方にも変化を起こしたいと考えるようになりました。社会制度の不備や、人から受けやすい誤解や偏見がまだまだ多いと感じるので、社会的養護や親を頼れない子どもたちが、より生きていきやすい社会となるような啓発活動にも力をいれていきます。

